

第6次高浜市総合計画推進会議（第1回） 会議録			
日 時	令和4年8月5日（金）午後6時55分～8時30分		
場 所	市役所 会議棟	傍聴人数	1名
出席者	委 員	中川幾郎、石川多恵子、川角満乗、菅野洋一、後藤恵理、 都築美穂、平井吉弘、横山英樹、宮田克弥、深谷直弘  (10名出席)	
	行 政	高浜市長 吉岡初浩 教育長 岡本竜生 総務部長 杉浦崇臣 こども未来部長 磯村順司 秘書人事グループ リーダー 神谷義直 ICT推進グループ リーダー 山下浩二 財務グループ リーダー 清水健 文化スポーツグループ リーダー 鈴木明美 学校経営グループ リーダー 内藤克己 学校経営グループ 主 幹 小嶋俊明 こども育成グループ リーダー 板倉宏幸  (11名出席)	
	事務局	企画部長 木村忠好 総合政策グループ リーダー 榊原雅彦 同 主 査 祖父江佑介 同 主 任 多武利康 同 主 事 村松邑馬 同 主 事 嶋本花凜 同 主 事 東端佑奈  (7名出席)	
次 第	1 あいさつ 2 議題 1) 「施策評価シート」(内部評価)の発表について〔基本目標Ⅰ・Ⅱ〕 3 その他		
資 料	資料1：令和4年度「市民意識調査」「小・中学校アンケート」の実施概要について 資料2：施策評価シート【令和3年度の取組みに対する行政内部の評価】		

1. あいさつ	
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ今より、「第1回 第6次高浜市総合計画推進会議」を開会いたします。はじめに、市長さんよりご挨拶をお願いします。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変お忙しい中、暑い中、コロナ等心配が多い中ご参集をいただきありがとうございます。</li> <li>・私どもも副市長が変わり、まずは委員の紹介から始め、皆さんからご意見をいただきたい。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。議事に入る前に新しく委員になられた方がいらっしゃいますので、簡単に自己紹介をお願いします。</li> </ul>
副市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでは事務局の立場で関わらせていただいていたのですが、この4月からは委員として入らせていただく。よろしく願いいたします。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご挨拶ありがとうございました。</li> <li>・副市長におかれましてはこの4月からなられた。</li> <li>・杉本ゆかり委員、都築一彦委員より、それぞれ一身上の都合により委員を辞退したいという申し出がありました。事務局のほうで承諾し、委員会から外れることとなったことをご報告いたします。</li> <li>・本日は後期基本計画に掲げた目標の達成状況を点検、確認することを趣旨にしています。従いまして、行政内部で取りまとめていただきました施策評価シートの内容を所管グループより発表していただきます。</li> <li>・第1回推進会議では、基本目標のⅠ・Ⅱの発表、8月23日開催の第2回推進会議では、基本目標Ⅲ・Ⅳの発表ということで、2回に分けての発表となります。</li> <li>・委員にはコメント用紙を配布していますので意見の記入をお願いします。これは次回会議分と合わせて提出をお願いすることになります。</li> <li>・会議の最後に全体を通して委員一人ずつから一言ご発言をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。</li> </ul>

<b>2. 議題</b>	
<b>1) 「施策評価シート」(内部評価)の発表について[基本目標 I・II]</b>	
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議題1「施策評価シート（内部評価）の発表」に入りたい。</li> <li>・発表の方法であるが、まずは、行政サイドから発表を行い、目標ごとに区切って委員からのご意見をお受けします。</li> <li>・時間も限られているため、行政の発表は1目標あたり「4分以内」でお願いします。</li> <li>・令和3年度の実績内容や成果、課題などをしっかりと確認し、私たち委員から今後に向けて、取り組みをより良くするための意見を述べてまいりたいと思います。</li> <li>・では、発表に入ります。まずは基本目標Iの発表ということで、資料2の18ページ、目標（1）の発表からお願いします。</li> </ul>
総合政策GL	<資料2 18～19ページを基に発表>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなことに取り組みますの下ところで、職員のワークライフバランスを考えた働き方改革ということで、時差出勤や在宅出勤を行ったということで、引き続き取り組まれるということなんですけれども、これに対する成果や効果というのはどういうものがあつたでしょうか。</li> </ul>
秘書人事GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずテレワーク、在宅勤務の関係でございますが、実施率としましては、昨年度1年間1人あたりで申しますと、2.71という形で非常に低い数字となっております。県・国のほうはもっと高い数字を望んでおりますが、現場があつたりですとか、窓口業務等もございまして、管理部門ですと割と実施しやすいんですが、窓口を持っている業務とかになりますと、どうしても厳しいという状況が現実でございます。</li> <li>・そういったことも含めまして、在宅勤務以外に時差勤務というものも推奨しております。早い職員ですと、朝7時からの出勤。遅い職員ですと、朝10時からの出勤という形で、時差勤務をしながら、少しでも、コロナ対策も踏まえた働き方改革に、努めていきたいというふうに思っております。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響なのか、50周年という節目の行事があつたと思うんですけれども、それにしても、それにしても地域の行事に参加したことの市民の割合が70%と低いのではないかと。それに対するアプローチというのはちゃんとやられていたのかどうか。</li> </ul>
総合政策GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50年に1度の市民の皆さんと一緒にになれるチャンスのとこだつたのかなというところを思っております。実際市民の皆さんと一緒に事業の企画・実施をしてまいりました。市民の皆さんは45名参加をいただきました。女性のチームや子どもたちのチームなどがありました。実働期間はたぶん3年から4年ぐらい一緒に。コロナで事業が延びてしまったので、ちょっと間延びしてしまったところもありますが、関わってくださった方々は本当に、一生懸命取り組んでくださったんですけども、最初の想定ではもっと一緒に参加し</li> </ul>

	<p>て事業をやってくれる人を募りたいなと思ったんですが、結果として 50 人程度というようになってしまいました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただそこに関わってくれた人が、第 7 次総合計画の市民会議の中にも何人か入ってくれているというところで、一定の効果はあったのかなと思いますが、指標のところにつきましては、この最終年であと 13 ポイントちょっとまだ足りてないというところがありますので、目標達成に向けて頑張りますということでよろしくお願いします。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民と一緒に地域活動に取り組んでいる職員の割合が 40%とかで、下がってますよね。テレワークとか、情報発信に対しても、I Tとかいろんなものが出てくると思います。そうしたときに、職員の数が適正なのかどうか。そういうのは御検討されてるのでしょうか。健全な予算をとるために無駄を節約して、効率を上げていくということをやっているんでしょうけども、もう無理があるということじゃないのかなと思うんですが。</li> </ul>
秘書人事GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の採用の関係のことですが、おっしゃったところは当然配慮する必要があると考えております。職員採用につきましては、定員適正化計画をつくっております。計画に基づいて、毎年、こういった形で採用しているか、また、委託できるものは委託するなりして、なるべく財政効果のほうも見せながら、長期的な視点に立って、職員採用はしていくという形は考えています。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、21 ページ、目標 (2) の発表をお願いしたい。</li> </ul>
財務GL	<p>&lt;資料2 20～21 ページを基に発表&gt;</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 点ほどありまして、まず問題解決に向けた方向性のところに、ぴったりサービス及びあいち電子申請・届出システム。ここに書いてある、実は私のパソコン使って、どこまで行けるか、いろいろ入ってみたけど、出来ませんでした。この中に、定期的の使用料を見直すマニュアル作りだとか、言っているが、1 番上に書いてある (2) の、工業用地の創出、市税徴収力の強化、ことどう関係あるのかがよくわからない。</li> <li>・もう 1 点は 22 ページの一番下にありますこんなことに取り組みます！ (3) については、目標達成状況と分析結果に、幅広い年齢層に関心を持ってもらうまでは至っていないとは何なのか。問題解決に向けたその方向性の案のところには、そのことについて全く触れられていないんですけども、いいのでしょうか。</li> </ul>
I C T 推進GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず I C T 推進Gのほうからぴったりサービスについてお答えさせていただきます。そもそもぴったりサービスは一言で申しまして電子申請。ご自宅にしながら電子申請が出来るということなんです、今ご指摘のあったぴったりサービスについては今年度整備する予定をしておりますので、現時点ではご案内で留まっておりますのでよろしくお願いいたします。</li> </ul>
財務GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業用地の創出と市税徴収力の強化、あと、受益者負担の適正化の部分です</li> </ul>

	<p>が、財源を確保するという意味で、使用料も適正に、受益者の負担を適正化するということと、工業用地を創出することによって、税収を増やすとか、そういった関係性から、こんなことに取り組みます！の中でまとめたものとなっております。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用料とは何の使用料なのか。</li> </ul>
財務GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設の使用料という形で上げさせていただいております。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受益者負担のことでお伺いしたい。22 ページの、II ①で、次期改定に向けて、施設別行政コスト計算書を作成し、定期的に見直すマニュアルの検討を進めたということで、そもそも公共施設の使用料についても、定期的に見直しをしていなかったのかどうか。</li> <li>・行政コストの計算書に基づいて、どのように受益者負担を適正化するのか知りたい。それから、当然使用料は公にしていけないといけませんが、改定サイクルみたいなものはお持ちなのかどうかお聞きしたい。</li> </ul>
財務GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用料の改定ですが、以前この改定を行ったのが、令和 2 年に 20 年ぶりに行っておりまして、このときは、人件費の増と、消費税の増額部分のみの改定となっておりまして、マニュアルというものが、現時点でないものですから、ある程度一定のマニュアルをつくることによって、定期的な見直しを今後行っていきたいと考えてまして、総合計画の改定期間と同じ、4 年ごとに、今後は見直していくということを考えております。</li> <li>・コストの部分に関しましては、一般的な税の負担が多いものですから、その負担割合も、今後検討していく必要があると、今現在では考えております。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受益者負担というのは、使った人がその利益において支払う、当然のことのような気がして、例えば、20 年ぶりに改定したということは、20 年間、実は公共施設維持管理に対して一般財源から持ち出しがあったんじゃないかなという気がする。そうすると、その分はどっかでまた埋め合わせしないと出っ放しになっていると思う。それをもう少しシビアに 1 回考えていただいて、本当の受益者に対しての負担を求める姿勢を示したほうがいいという気がするが、いかがでしょうか。</li> </ul>
財務GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全て受益者負担という形になりますと、かなり使用料が高額な金額になると思いますので、その割合については、どこが適正か、今、検討している段階で、何が本当にいいのかというのは、研究、近隣市の情報も仕入れた上で決めていきたいと考えてます。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今ご回答いただいた中に、税による負担も含まれてるという話がありました。一般的に、全ての公共施設、全部そうです。完全受益者負担でいきますと減価償却費入れるかどうかという議論があります。これ減価償却費入れたら多分今の使用料の 20 倍ぐらいもらわないと、経営出来ません。その分は全部一般の市民が負担してる、税から一般財源で負担してるんです。オープンになるという料金設定は、まず考えられません。なので、市民感覚から言うた</li> </ul>

	<p>らどのぐらいの負担が感情的に妥当なのかというのを探るしかない。ただそれを定期的に見直すということに関してはルール化されているべきことではないかという委員のご発言だと私は思うので、そういうふうにご理解いただけたらと思います。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内のことが多く書かれてるんですけども、これから、国、県、からお金をもらう、そういう施策、方策を、持ち合わせていないのでしょうか。国なんかですね。28兆円余らしてるんですけど。これ市民に強力に徴収すると。住みよい市じゃなくなっちゃうんじゃないかと、よそ行っちゃうよとか、あるから、ステークホルダーを、国のほうへ向けたらいかがでしょうか。たぶん依存財源が少ないんですよ。依存財源は、50%ぐらい取ったらいんじゃないのでしょうか。交付税というのはなかなか取れないと思うんですけども、ほかの、国庫支出金とかですね、いろんなものを取れるんじゃないでしょうか。そうやって財源を増やしたほうが、良いんじゃないですか。50%まで上げたらどうなんですかね、それは出来ないという話なのかどうか分かりませんが。市の中でお金を取るというよりも、国からお金を取ったほうが良いんじゃないでしょうか、余っているんだから。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乱暴な議論になりつつある。国から、地方に配分されるお金についてはきちっとルールがある。それから今お話しされたような補助金とか、もしあれば、それを取りに行けという程度の話だと思う。それは十分されており、交付漏れなんてないと思いますが。</li> </ul>
財務GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を行うに当たっては、補助金を有効活用するように、検討して職員で行っています。そのほかに歳入確保という意味では、ふるさと納税、収入を増やしたりだとか、ボートチケットの交付金をいただいたりとか、最近では公用車を売却したりとか、職員それぞれ、いろんなアイデアを生かして、歳入確保、歳出のほうは、削減するように努力はしております。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・依存財源という言葉が今出てきましたけれども、本文どこかに書いてありましたかね。今のお話はわからんことはないのですが、国が20数兆円余らしてる。これは国家財政のいわゆる繰越し財源とか今あるんですけど、現実には、国はそれ以上の借金をしてます。コロナで。いわゆる償還経費だけでも、一般会計の30%から40%になろうとするだけの、ひどい財政になっています。それは置いといて、その国の責任は我々関係ないと言ってくれるわけです。地方は地方でもらえる権利金があるんです。それが地方交付税です。その地方交付税はちゃんとルールどおり交付されます。交付漏れにならないように、きちっと申請していくのが財政の仕事で、そのほかにも特別交付税というのは時々出るんですよ。これは私は地方交付税法の本来の精神からいうと、補助金的に使うというのは、交付税法違反だという立場をとっていますけども、ふるさと創生なんかの事業に、交付税が出ますみたいなことで、いろいろ国は誘導しようとしています。これだって、申請漏れはないはずで</li> </ul>

	<p>す。あの手この手で国から引っ張ってこようとして、それをたくさん取ってくるのが財政の腕なんですけど、ほとんどの自治体は、皆それ漏れ落ちなくやっています。あと取れるのは民間の補助金ぐらいです。なのでおっしゃっている趣旨は、十分財政としては心得て、漏れ落ちないようにお願いします。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A I とか I T とかいろんなことがあって、これからテレワークの I C T とかそういうので業務をやっていくということに、なっていくと思います。その中で、市民の個人情報が出るとか、そういうセキュリティ、例えば、この間も山口県で誤って 4000 何百万も振り込んでしまったり、人はミスすることがあると思う。市民の個人情報が入った USB メモリが飲み屋でとられてしまったり、テレビでよく聞きます。そういう、そのセキュリティに関して、どういうシステム、対策をとられているのか、お聞きしたい。</li> </ul>
I C T 推進 G L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 詳しくお話しするとすごく難しくなってしまうのですが、セキュリティに関しましては国の基準が決まっております。今現在、最も個人情報が流出するのはインターネット経由かと思うのですが、その部分については今、市のほうではインターネットに直接つながるような環境ではないということなので、そもそもつないでなかったら、漏洩しないだろうということが大きな柱であります。</li> <li>・ セキュリティについては人的セキュリティと技術的セキュリティの大きく二つありまして、技術的なセキュリティについても、ほぼ安全な状態になっておりますので、ほぼ人的セキュリティ、USBメモリを持ち出すということは我々も禁止していますが、それについてルールを定めておりますので、ただ、それを守るか守らないかは実は職員のモラルの関係になりますので、その点については、我々のほうとしては定期的に職員に研修を行ってリスクを説明していくということをしていくしかない。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 続いて、基本目標Ⅱの発表ということで、24ページ、目標（3）の発表をお願いします。</li> </ul>
文化スポーツ G L	<p>&lt;資料2 24ページを基に発表&gt;</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなで目指すまちづくり指標、愛着や誇りを持っている人の割合、これが落ちた原因はどのようにお考えか。</li> </ul>
文化スポーツ G L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これは、上がったたり下がったり、近年大体 60% 半ばぐらいで推移しているところですが、外から入ってくる方が増えているといったところが一つの要因かと思っております。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 25から26ページにかけての（2）の課題と問題解決に向けて方向性のところに関係しますが、方向性のところに、第3次生涯学習基本構想を策定する、それから子ども読書活動推進計画を策定するとあるが、これとその前の課題とのつながりというのはどうなるのか、よくわからない。</li> <li>・ （3）は文化スポーツとしてやっていく、スポーツの内容が書いてあるが、内</li> </ul>

	<p>容が目いっぱい書かれている。高浜市としては何に力を入れてやっていくのか。力を入れるものが盛りだくさんに書かれて、方向性がないように感じられる。</p>
<p>文化スポーツ G L</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1点目の、第3次生涯学習基本構想と子ども読書推進計画の策定と課題とのつながりがわからないという御質問でございますが、今、第7次総合計画を策定しております。その下位計画、分野別の計画ということで、生涯学習の計画、あるいは読書の計画というものを並行して進めていますので、この6次、特にこの後期で進めているいろんな課題というものが、全てこの見直しの中で次の計画のほうに生きていくように、今、検討を進めております。その中でも、特に、課題だと思ってるのは指標としている愛着と誇りってところが、今後のまちづくりの原動力になっていくというところがありますので、ここを是非とも上げていきたいということと、それから、市民の皆さんには、いろんな特技とかいろんな力を持っていらっしゃるの、そういった力を、様々な世代の方、まちのために活かしていただく、持っている力を活かしていく、そういうところをいかに取り組んでいくかというところを認識しております。</li> <li>・スポーツに関しては、今おっしゃられるとおり確かにたくさんあり過ぎてというところがございます。特に、行政だけで取り組むことだけではなく、様々なスポーツ団体の皆様も、たくさん取り組んでいらっしゃるというところで、市として特に力を入れたいというところは、世代を問わず、様々なスポーツを体験できる、生涯スポーツ、例えばレガッタというものですとか、こういった、高浜ならではのスポーツというものを、郷土の、歴史だとかいろんなことと絡めながら、健康づくりの観点でニュースポーツですとか、何かの競技に特化してというよりは、健康づくりだとかまちへの愛着復興につながる、そういったような、観点のところを重視してまいりたいなと思っております。</li> </ul>
<p>中川幾郎会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の基本構想、策定基本方針を定めて見直しに着手されるということですが、暇と金と体力が余っている人が楽しむような生涯学習はもうやめてもらいたい。そんなことにお金をかける時間は今の高浜にはないと思っております。それよりも5つあるまちづくり協議会の、人材がもう枯れようとしているんじゃないか。そこをちゃんと継いでくれるような人たちが育つような、市民教育というんですかね。シチズンシップという、そういうものを開発される方向に大転換するべきじゃないかと前から思っています。申し訳ないが、美術館とか、それから図書館とかいうものは、その延長上にあるものではなくて、スタートラインと捉えると、ばらばらになってしまうような気がしませんかと思う。</li> <li>・それから公民館というのはこのまちで一つのテーマとして、争いの対象になってしまった歴史があります。これは、各まち協が市民学習の場を分担して</li> </ul>



	<p>持つという方向に展開されたはずだ。その方向に向けた市民学習の強化、あるいはバックアップ、登場しやすくなるような仕組みを何とか開発してもらえないかと。今は何かアクティブな市民ばかりが得してるという感じがする。むしろたくさんのおよそから来られてる方が増えてきてるから、だんだんと愛着心が落ちてくるって結構自然なことで分かるんですけど、であるならばよそから来られた方をターゲットにした市民学習の場というのは、ここで勉強すれば、たくさん友達が出来、知り合いも増えると。まち協に行けば新たに活躍できる場所がいっぱい待っているような、そういうチャンネルをもっと開発したらどうかなという気はしております。私としては何かそのカラーを出してほしい。以上です。</p>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、27ページ、目標（4）の発表をお願いします。</li> </ul>
学校経営G主幹	<p>&lt;資料2 24～27ページを基に発表&gt;</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・27ページの4の課題のところで、異業種間で、授業参観したり、いろんなことをやっていただくのですが、これを、どういう形で発展させて、どんなものにしたいのか。お教えいただきたい。</li> </ul>
学校経営G主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば小学校の教員が、自分たちが教え、関わった子供たちが、この先、どういうところで学んでいくんだろうというところで、小学校教員が中学校の授業の様子を見に行く。例えば、中学校の教員が生徒たちがどういう学びを経て、中学校に上がってくるんだろうということで、小学校の様子を見に行く。同じように、小学校教員や、幼稚園保育園の先生方の、異校種参観ということなんですが、実際に、そこに出向いてですね、先生方の関わり方だとか、子どもの、動きをどう支援していくのかということ、本当に直に目で見て、学んだことを、簡単ではありますが、自己の振り返りということで、まとめて、それを、職員の中だとか、学校現場で共有しながら、明日からの、自分たちの教育に活かしていくというか、それをもう日々繰り返していくということで、幼保小中の教員が、同じ気持ちに立って、子どもたちの学び育ちをつなげていこうという意識を、同じ方針でやっていこうということまで狙っております。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そもそも論に戻ってしまう危険性を感じますが、目標4番で、学校・家庭・地域が連携を深めと書いてありますから、それぞれの主体ははっきりしないといけないと思う。この全体の中で読んでいて、例えば、子どもが地域に関心を持ち、自分ができることを考え、実践していますとか書いてあるが、今日文部科学省が学校におけるクラブ活動を地域にお願いしたいなんて言っているのではないですか。それに関する具体的な記述はどのあたりで対応しているのでしょうか。</li> </ul>
学校経営G主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動改革につきましては、本当に課題が山積しております。県内の各市町の教育長会議の中で、スポーツ庁で語られている、土日の部活動は、地域に預けるということは、方針というか話題が先行していますが、本当に土日</li> </ul>

	<p>だけ、子供たちの面倒を見てくれるような団体さんが、例えば全ての部活動、例えば野球、サッカー、バスケ、テニス、文化、本当にあるのだろうか。実はこの部活動を展開していく中で、子どもとの関係づくりだとか、生徒指導上の問題だとか、責任の在り方だとか、そこを本当に解決できるのだろうか。保険の問題はどうなんだろうと、安全注意もどうなんだろうかというところで。なかなか本当に簡単に移行するっていうところまでには、まだ現実を考えると難しいということで、今まさに県内の教育長会議でも、本当にどうしていくのかなというところで、模索中であります。</p>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模索中ということで、理解しますが、この計画では、目標で定める前から、地域ということが主体として出てきています。何度目かで、委員に対して質問したのは、地域というのは風景なのか、主体なのかと私、問い詰めたことがある。学校におかれては、地域を主体と捉えていただきたい。そうするとその地域における教育主体、地域教育の主体は一体どこが担うべきなのか、もう少し明確に記述していただけないか。例えばまちづくり協議会が地域教育を担うのかどうか。ぼんやりと地域の人がやってもらいたいなでは単なる期待であって、計画になりません。そこら辺についてお考えはいかがですか。</li> </ul>
学校経営G主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会の方々のご支援による、学校教育に対する価値というものは本当に大きなものでありますが、主体をどうする、どこに持っていくのか非常に難しい問題ではありますので、やっぱり子どもたちのために、こういった活動が、1番価値あるものかというところを考えたときに、学校教育と学校とまち協の方々がよく話し合ってますね、こういった取組を、どういうところに視点を置いて、重点を置いて、子どもたちのためにしていきましょるかというところを。主体というのはちょっと、非常に難しいものではあります。やっぱり、よくよく話し合ってます、今後も進めていきたいと考えています。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだまだ未解決の課題と取りました。学校・家庭・地域が連携し、子どもの学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思えるという市民意識調査の設問に対応した、地域のシステム開発を、学校側としても要望をはっきりお出しになるべきじゃないですか。これは委員としての意見ですけども、いわゆる社会教育というものの中における地域教育の在り方をもう少し明確にしていきたい。というのが私の願望です。</li> <li>・総合計画における地域が何か風景としての地域として見えてしまう。ぼんやりとした風景のとしての地域というのは何の力もありません。そうではなくてアクティブな、主体性のある地域というものを、学校においても把握していただくと。このほうが地域に関心を持ち、自分ができることを考え実践していますというのが、目標完成の姿ではないか。子どもがどのような地域への関心を持つように教育するのかということについて、御所見はいかがですか。</li> </ul>

	か。
学校経営G主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなか、学校教育の中で、地域に関心を持たせるところは、総合的な学習の時間だとか社会科教育だとか、生活科の時間で学ぶことができるんですが、学校教育の中で、地域教育を進めるというのが、その住み分けというのがですね、非常に難しいなということは感じておりますが、ただ、関係性については、やはり、地域の方々に力をいただいていることは感じておりますので、そこは、今後も、連携をしながら進めていきたいと思っています。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IVの課題と今後の取組みの中の課題解決に向けた方向性の案の中に、学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる意識を高めるためにと、ちゃんと書いてあるので、これについては、学校教育側から地域教育はこうあるべきじゃないかというアクティブな問いかけと、いわゆる社会教育もしくは生涯学習サイドから、学校とはこういう連携をすべきではないのかという対話をしていただきたい。双方に。地域に関するきちとした行動記述があるべきかと私は思う。私は踏み込み過ぎかもしれませんが、もうそろそろ言っても良い頃かと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この12年間とか書かれておるんですけども、最近ですね、中高一貫教育が決定しましたよね、刈谷市の刈谷高校とか半田高校とか。そうしますと、中学生が流出していくと。問題とかないでしょうか。そうするとここに亀裂が入ってこないかなとか、そういう心配があるんですけども、その辺はどうでしょうか。</li> </ul>
学校経営G主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろ考え方はあるかと思いますが、今まだ、モデルといいましょうか、これから進んでいくというところでありまして。全ての子どもたちが、果たしてそこを目指していくとは思いませんし、やっぱり地域に根差した、学校は様々ありまして、子どもにとっての、自分になりたい自分に向けた、目標だとか、目指すところにつきましては、そこが全てではないというふうに思っておりますので、子どもと向き合って、その後のなりたい自分の実現に向けた進路指導というのは、丁寧にやっぱりコミュニケーション、保護者の方の願い、子どもたちの願いを考えていきながら、助言はしていきたいと考えています。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、30ページ、目標(5)の発表をお願いしたい。</li> </ul>
こども育成GL	<資料2 30ページを基に発表>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで目指すまちづくりの指標のところ、子どもに対して理解のある大人の割合が69.5%。目標値が94%。結構差があると思うんですけど、これって、理解のある大人の割合が69ということは理解のない大人が30%いるということで、私はここにひっかかったのですが、これはこれからどうやって増やしていくのか。</li> </ul>
こども育成GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの御説明のほうでも、いかに子供たちの活動に、大人の方が加わっていくか。という機会を創出するかというのが、一つのポイントではないかな</li> </ul>

	<p>と考えておりまして、いわゆる子育ての支援講座等により、子どもたちの立場、思いを酌み取れるような大人を目指していくことが大切ではないかと考えております。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 31ページの4のところ、課題と今後の取組みで、ここに課題でICTを活用した情報発信の拡充ということと、それから問題解決のところを見たら、コロナ禍により、対人での対応に抵抗を感じたり、制限がなされることにより、知りたい情報が得られにくい環境となっているということで、これは課題と、解決の方法と入れ替わっていないかという気がするんですが。</li> </ul>
こども育成GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書き方に配慮が足りなかったかもしれません。いわゆる、保護者の中にはで、対面して話す、相談をするという事に対して抵抗を感じている方も、みえていの中で、いかにそのような環境や制約がある中で、いわゆる内に秘めてしまうような、心配事というものを知りたい情報にどうつなげるのかということと、今、若いお母さんたちが、活用している、情報機器等も、活発に活用することによってつなげていくということを意図して書かせていただいた。課題と方向性が混在した書き方になっているのでこのあたりはまた検討させていただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 31ページの1番上の子育て家族支援者養成講座及び地域向けの子育ち子育て支援講座、予定どおり実施したとあるが、これはどれぐらいの人が参加したのか。定期的にどれぐらいされているのか。</li> </ul>
こども育成GL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て家族支援者養成講座でございます。こちらですね、実は、コロナウイルスの影響の関係で一部リモートで実施をしておりますが、昨年度は、令和3年12月5日から令和4年3月7日の間に10日間実施いたしまして、子育て支援者養成研修におきましては7名が受講している。</li> <li>・ 現任研修につきましては、12月5日から3月7日の中の8日間の中で、29人程が参加しておりまして、恵泉女学園大学の大日向先生や、東京大学の名誉教授の汐見先生に講師をやっていただきながら、カリキュラムを実施した。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以上で本日の議論すべき項目は終了した。</li> <li>・ 最後に委員の皆さま方お一人おひとりから、今回の全体を通して、あるいは、個々の目標に対してでも結構なので、令和3年度の取組みについての成果や課題、今後に向けてのエールなど、お一人1分程度でご発言をお願いしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育のところ、まだしっくりいかなかったが、高浜市が育てていきたい子どもの姿ということでそのカレンダーがあがっている。このカレンダーが、地域において活用が定着していると断言されているわけだが、それがどういうふうな形で定着していると、分析されたのかということと、もう1点は確認ですが、施設の使用料を、新しくこれから算定することについて、今は平米あたりいくらで算定されていると思う。同じ平米だったら、会議室も同じような値段ということか。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。50周年の、催事というのかそれが2年かけて無事終わってほっと一息というところで、ただこの、総合計画のほうのお話になってきて、また新たな気持ちでというふうに見ております。</li> <li>・やはりこの結果分析に対して結果は書かれているが分析の部分が、いろんなところで弱いかなというふうにお見受けするところがありましたので、もう少し分析が入ると、これからの展開に向けて、アクションの意味合いが深くなると思う。またその点を次年度からもよろしくお願ひしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろ質問をさせていただいた。私の趣旨としましては、財政運営は、立派にやられてるので、何も言うことはないのですが、有事のときに大丈夫かと思う。地震で家がそこらじゅう壊れたとか、そういうときに市の中で、財政を健全にしておくのがいいんですけども。保険というか安全保障として、国からお金をもらうという方策も考えたほうがいいんじゃないかなと思う。先ほど思った職員の数は適正ですかという話は、私が町内会長をやっているときにケシが自生した。このときに、町内会長としては手も足も出ないわけです。市のほうで、対処していただかないといけない。その間は時間がかかってこないんですけども、全員もう一般の人とかその家族の人たちはみんなに絶対触るなよと。取ったら不法所持だろうと。その庭に咲いとるわけですよそれが、そういうときに、我々も有事のときに、みんな協力しようとするのだが、権限がない。我々は、協力したいんですよ。そういうことで、適正なのか、それからお金に対しても、余裕も出しとかないかんじゃないかというので、話をさして質問させていただきました。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政評価なので、皆様のやられたことに対して御自分でどう評価してるかというのがここに書いてある。それは、尊重するというか、よくやっていただいていると思う。</li> <li>・問題は、地域だとか、一人一人の住民の方とかに働きかけるということが幾つか出てくるんが、もう、それをどういうふうに見てるのかっていうか、どう評価してるのかというのをちょっと入れておかないと、自分たちはやったから100点だけど、問いかけた相手は、どう思っているのかが、例えば全然何もしてないよという、0点となる。だからその辺、自分たちが、しっかりやったから100点でも、相手はそう思っていないのかもしれないなという、ちょっとした猜疑心でないが、それも併せ持って欲しいなと感じた。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の委員さんの意見がすごく勉強になるというか、私の視点ではないので、すごく刺激になる情報ばかりいただいている感じですが、行政の方もすごく、年を重ねるごとに、すごいたくさんの方が、結果として、目に見えるものが進んでいるなと感じました。</li> <li>・30代40代の関わり、そういうのが減っているというのは課題なのだが、私も30代ぐらいから学校関係に関わって、あのときがあったから、今こうやって関わっているなという実感があるので。引き込める策というか、本当に、</li> </ul>

	誰かからのお誘いがあったら入り込める空間なのに、何か、どうなっているのか、ちょっと残念だなという部分もありますが、また行政の方にも頑張っていたらなと思いました。
委員	・毎日高浜で生活していい街だな、愛着のある街だなと思っているんですけども、こう見ていると小学生なんかは変わってきている人も多いのかなと感じる。うちの周りでも新しい家ができて、小学生なんか多いんですけども、アンケートをとると、どうしても愛着というか、そういうものが少ないのかなというふうに。なんとかして地域に入ってもらいたいと思うんですけども、なかなか夫婦共稼ぎとか入ってもらえない事情もある。それでも輪がちょっとだけ増えていくので、そういうふうで繋がっていけると良いのかなと思っています。
委員	・今日初めてお話するんですけども、それぞれの職員さんすごく立派にやってお見えになると思います。一つだけ残念だったのは、3年度の反省事項を4年度へ反映するにはどうしたらいいかというのはちょっと自分たちが知りたいと思うんですけども、それが無いもんですから、自分としては意見をどう述べたらいいのかなということで、全然話をしておりません。ただし、先ほど申しましたように、職員さんはよくやっていただいとしたいと思います。
委員	・ありがとうございます。私も行政のほうはすごくよくやってくさってると思うしわかりやすい。やっぱり、これに対してこれというのをもうちょっと具体的に書いてあると、わかりやすいかなと思います。あと、宮田先生と一緒にになりますが、カレンダーというのは、幼保と小学校中学校に配られているのでしょうか。うちの場合は子どもが小学生でも何でもなくて、カレンダー自体を見たことがない。そういうのを私みたいに見たことない者でも見れるようなところがあるんですかね。そういうのをお聞きしたい。
中川幾郎会長	・質問に対してまず答えを。
財務GL	・使用料の関係ですが、基本的には面積按分で積算をしておるんですが、統一的なそういった積算根拠という基礎がないので、今後定期的に見直すに当たってそういったマニュアルを今後作成していきたいと考えております。
中川幾郎会長	・質問に対してお答えを。
学校経営G主幹	・カレンダーにつきましてはお子様、学校幼稚園に通っている子を中心にお配りさせていただいておりますが、地域の公民館だとか、そういったところには、配布をさせていただいております。そこに行かないと見る事が出来ないという難しさはありますが、それにつきましては今後どういうふうにして、そういった声があったということは、現場に伝えて、検討してまいりたいと思います。
中川幾郎会長	・副市長からもご発言いただきたい。
副市長	・委員の方からそれぞれ、ご質問ご意見等をいただいたと思います。皆さん最後に、コメントの中で申されたように、やっぱり行政が一生懸命やってお

	<p>てもそれがなかなか市民の方に浸透しないというか一緒にスクラムを組みながらやれる姿が見えないところがある。私も思っておるのが、かねがね夢と一緒に語って、スモール、小さいことからやっていくということは、次に繋がっていくのかなあというふうに思っております。確かに今ご意見いただいたようにですね、わかりやすく伝えるということも、この、去年の事業の中で、どこまでが出来たのかなという、皆様のご意見を聞きながら反省をしておりましたので、そういったところを踏まえてですね、また、次期の計画については、しっかりと一緒にやっていけるような努力をしていきたいなと思っております。</p>
<p>中川幾郎会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お1人1分程度と非常に乱暴な区切り方をして発言し足りないという委員もおられるかもしれませんがご了承ください。</li> <li>・一人一人大変大事なことをおっしゃっていただき、行政評価の在り方として、内部評価ばかりでなく、相手側の評価も入れる工夫をしてもらいたいということでした。いわゆる外部評価ということかと思うんですけど、それも非常に印象に残っています。平井委員がおっしゃっているのは、要するに財政上の安定性というか、リスクマネジメントということをおっしゃったと私は思っています。多分、国からお金を取ってこいということをおっしゃっていて、実は財政調整基金をどうする、これから、どうしていくかということになるんじゃないか。いろいろ交付税法上のルール上の収入というのはもう当然のことと理解して、それ以外の安全性というかな、財政運営上の安全性ということをおっしゃったと思います。</li> <li>・職員の皆さんよくやってくださっているという評価をいただけてますが、よくやってはいるけれど、見えやすくしてくれと。その成果の見方を可視的に。それから、まち協の人材がこの補給というか、継承者はやはり枯れてきているのではないかという危機感をお持ちなんじゃないかと思う。そこでよく出てくるのが、若い人が流入してきてもそれを引き継いでくれない、引き継ぐ人材にならないという話がある。これは当たり前のことで、どこの街でも、よそから来てすぐに、すぽっと定着して自治会に入りますということはないわけですよ。その前に、役所のほうからこんな仕組みになっていますよ。地域にはこんな組織ありますよね。だから行かれたらどうですかというようなパンフレットを配るとか。東京都内ではもう皆それをやっている。青梅、立川、八王子とか。地域でこうなりますよ、顔出しされたらどうですかとやっていますよね。そういうアクションをする必要があるかもしれない。まち協はこんな組織ですとか、そういう誘いも必要ではないかということ。</li> <li>・それから、夫婦共働きであるというのは、もう今や当たり前のことで、若い人は、はっきり言いまして、貧困化しています。昔の人の所得データの水準を100とすると、今の人たちは平均80ぐらいで、どんどん下がって行って</li> </ul>

いる。ですから、働かないと子どもを養えない。ほとんど大多数がそうです。皆さん御承知かどうか知りませんが、7人に1人は貧困家庭です。日本全体で、それから5人に1人は、子どもの就学援助の対象となっている。子どもがものすごく貧困化しているし、それを支える親も貧困化してる。その中で、どのように、地域を支える、支え合いをやるかということで、とても今地域の資源というのは大事になってきている。それを全部、家庭に押しつけていたせいもある。家庭の責任、これ、いわゆる自己責任論ですよ。それ言われると、弱い家庭は、どうにも出来ません。それを支えるために行政があるんだし、それを支えるために、中間支援的な地域があるはず。だから、行政の政策区分の前に、全部地域を入れてみたら見えるはずですよ。地域福祉、地域医療、地域保健、地域教育、地域防災、地域安全、現実には全部地域の責任で担っている話ではないか。だからここに対する危機感を、次の総計には、ちょっときつい目に、私は入れてもらいたいと思っている。

- ・若い人がたくさん入ってきて、人口が若返っていいじゃないかと言われますが、決してそうではない。それは反面で、人間が増えたところで関係は増えず、横ばいです。人間関係に乏しい人口が増えてるだけのことで。ということはやはり投資がまだ必要な、コミュニケーション投資が。そのままほっとくと、役所との関係がもうどんどん薄れてきて、ストレスを溜める、役所は不親切。何もやってくれない。というところでまたそのストレスが溜まる。悪循環だろうが、これを社会的関係資本の減少という。人口の問題ではないですよ。1人当たりが持っている信頼できる人間関係の本数を増やすという政策を打たない限り、関係の貧困からは逃れられない。その1番ターゲットになったのが30代40代ですよということ。

- ・それからそれに対応した、学校教育のアクションと、社会教育のアクションというのは、必要ではないかと。それをつなぎとめていくのが、まちづくり協議会であってほしいと思う。まち協に何でもかんでも押しつけるなどお叱り受けるかもしれませんが、本当は、ちょっと昔の地域社会が全部それになっていた。そういうものをもう一度再現する必要があるのではないのでしょうか。申し上げたかったことは、実は、社会全体が貧困化する、そこに対して共同防衛をしていく、必要があるということ、危機感をみんなが持ってもらいたいということです。これは暇がある、金がある、体力がある、健康な家族や親しい友達がたくさんいて、これは全部、富なんです。資産です。友達がいない、社会関係の貧困、時間がない、時間的貧困。お金がないというのは経済的貧困です。病気をしていると、健康上の貧困です。全てこの貧困に陥りつつある、全体の社会の中でそれを食い止めていくための、みんなで守りやっていくための、そういうふうな仕組みを持って、直さないといけない時期に来てるんじゃないですかということをおっしゃったような気がする。それを意識した、次の総合計画を考案していくということを感じ



	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これは推進会議ですので、評価をさせていただくということですので、施策に反映していただくことをお願いしたいと思います。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>本日の発言だけでは言い足りない点があればコメント用紙に、次回発表の目標（6）から（11）に対するコメントと合わせて、8月30日（火）までに事務局へご提出をお願いします。</li> <li>事務局では、本日の委員の皆さんからのご発言、コメント用紙の概要を、「施策評価シート」の「V. 推進会議による点検・確認結果」の欄にとりまとめていただき、次々回（第3回）の推進会議で「推進会議からのコメント」として確定するという形で進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いたします。</li> </ul>

3. その他	
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>その他として何かあればお願いします。</li> </ul>
事務局	<p>（事務連絡）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次回第2回推進会議は8月23日（火）午後7時から会議棟で行います。内容は本日の続きからで、基本目標Ⅲ・Ⅳについて意見交換を行います。今回配布した資料2「施策評価シート」を次回も持参していただくようお願いします。</li> </ul>
中川幾郎会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>これをもって第1回推進会議を終了します。</li> </ul>